R2 年 1 月　新聞記事（山陰中央新報）

令和 2 年 1 月 27 日付・山陰中央新報

ニュースのひと

外遊び通して健やかに

三浦　優里さん

（松江市浜乃木7丁目）

外遊びが楽しめる場所を知ってもらおうと、松江市乃木地区の公園や広場をまとめたマップを同級生5人と作成した。「晴れの日は子どもたちでにぎわう公園が増えてほしい」と願う。

保育士を志し、島根県立大短期大学部保育学科に進学。体育教育のゼミで研究を進めると、同地区は転勤族の家庭が多いため、広場や公園があまり認知されておらず、子どもたちに外遊びの経験が少ない状況を知った。マップ作りに取り組み、駐車場やトイレの有無などを載せて、公民館などに配布した。

今春、大学を卒業し保育士として働く。「外遊びを通して心身ともに健やかになる保育をしていきたい」と意気込む。20歳。

（坂本彩子）

令和２年１月28日付・山陰中央新報

県内進学、就職促進へ

県立大と松江市立女子高 連携協定結ぶ

県内での進学、就職につなげようと、県立大と松江市立女子高校がこのほど、高大連携協定を結んだ。県立大に生徒を招くキャンパスツアーや、市立女子高で行う課題解決型の授業への大学教員と学生の協力、生徒とＯＧ学生との交流などを想定している。

市立女子高は看護師や保育士、栄養士を目指す生徒が多く、卒業生の約９割が県内外の大学や専門学校などに進学している。一方、県立大はこれらの資格取得につながる養成学科があり、県内枠定員を拡充する入試制度改革を進めるとともに、卒業生の県内就職に力を入れている。

協定に基づく具体的な事業は今後の協議で決めるが、双方の教員と学生・生徒が連携することで、それぞれの魅力を高め、学生・生徒の確保につなげる。

松江市末次町の市役所で協定書を交わした県立大の清原正義理事長兼学長は「地域貢献をスローガンに思い切った授業をしている。これからいろんな相談をさせていただきたい」とあいさつ。市立女子高の小林邦彦校長も「共通のミッションは地域の人材育成だ。密接で活発な連携を期待している」と話した。

県立大が高大連携の協定を結ぶのは６校目。２０１８年度の卒業生（短期大学部含む）の５２７人のうち、県内就職者は２１３人だった。（松本直也）

令和２年１月28日付・山陰中央新報

島根大に８人出願

両県４大学でも始まる

国公立大２次試験の入試願書の受け付けが27日、山陰両県４大学でも始まった。初日は島根大に８人が出願を済ませ、鳥取大、島根県立大、鳥取環境大には出願がなかった。

島根大は前期６７９人、後期１９５人の募集定員に対し、医学部の前期試験に８人が出願。鳥取大は前期７０９人、後期２０８人を募集する。

島根県立大は、既に出願を締め切った同大短期大学部を除く３学部５学科で、前後期合わせて２６５人の募集を開始。短期大学部の２学科は募集定員計40人に対し１６５人が出願し、同日で志願者数が確定した。倍率は保育学科（定員20人）が前年と比べ０・15ポイント増の４・２倍、総合文化学科（同20人）が０・１ポイント増の４・05倍だった。鳥取環境大は前期１５０人、後期20人を募集する。

出願締め切りは２月５日で、前期試験は２月25日から始まり、後期試験は３月12日から。島根県立大短期大学部は２月８、９日に試験を行う。（佐々木一全）

～山陰で暮らそう～

多言語で話したい！

⑯

インドネシアのラマダン

ラマダンとはイスラム教徒が行う断食月のことで、1カ月間、日の出から日没までは飲食をしない。期間は太陰暦に伴って毎年11日ずつ前倒しになり、今年は4月23日～5月23日に予定されている。

毎日の日没後には、まず水分を取って胃を慣らしてから、揚げ物や甘い物などをしっかり食べる。店で食材を買ったり、外で食べたりするので、ラマダン中は日が落ちてから街が人でにぎわう。

ラマダン明けの祭りのことを「ルバラン」といい、住民が集まって朝から礼拝をし、近所の年長者や親戚らにあいさつに行く。この前後は連休になり、日本の正月のように地元に帰省する人が多い。

（原田佳代子）

＝毎週木曜掲載＝

音声はこちら↓

外国の方に関わる相談や情報提供は

■しまね国際センター相談専用ダイヤル

070－3774－9329

ラマダン

（インドネシア語）

断食明けおめでとう
Selamat idul fitri.
スラマッ イドゥル フィトリ

全ての失礼をお許しください
Mohon maaf lahir dan batin.
モホン マアフ ラヒール ダン バティン

断食
puasa
プアサ

インドネシアのちまき
ketupat
クトゥパッ

断食明けの祭り
lebaran
ルバラン

（イラスト・たかはしちかえ）

インドネシア

断食明けにはあいさつ

イスラム教徒が多いインドネシアでは、ラマダンは物がよく売れる時期でもある。断食明けを祝うために服を新調したり、連休で帰省するために車を買ったりする人が多いからだ。

日没後は街が活気づくが、日中は閉まっているお店も。飲食店では食べている様子が外から見えないよう、配慮をする所もある。

断食明けに近所の家を訪問した際は「全ての失礼をお許しください」と互いにあいさつをする。その後「長生きしますように」などと目上の人へ言葉を掛け、子どもはお年玉やお菓子をもらう。ルバランは日本の正月の過ごし方に近い。

鏡餅のように、この時期に飾られるのが「クトゥパッ」というインドネシアのちまき。ヤシの葉で包んで蒸す料理で、家の玄関につり下げるところもある。

（島根県立大・塩谷もも准教授、談）

令和２年１月 31 日付・山陰中央新報

県大生 SNSで島根自慢

県観光PR大使 親しみやすさ好評

飲食店を取材し、店員から人気商品などを聞く「ＳＮＳ観光ＰＲ大使」の県立大生たち

県から「ＳＮＳ観光ＰＲ大使」に任命された県立大生が、県内各地を回り、お薦めスポットなどを県の公式フェイスブックなどで発信している。学生たちが取材して掲載した記事は、通常の告知よりも1割程度多い閲覧があるといい、若者らしい親しみやすい内容が好評という。

同大使は昨年、同大の松江、出雲、浜田キャンパスの学生から県が募集し、９人を任命。学生は城跡やカフェを取材し、県公式のフェイスブックやツイッターなどで、今月から発信している。

同大人間文化学部（松江キャンパス）の4人は23日、県が進める「美肌観光」に関連したタピオカを使った「タピ肌」ドリンクを販売する松江市朝日町の「Ｐｏｐ ｍａｉｚ（ポップマイズ）シャミネ松江店」を取材。「ジンジャースパークリング」など3種類を味わい「どれが1番人気ですか」と店員に質問。写真にもこだわり、さまざまな角度から撮影した。

同部地域文化学科1年の有馬涼香さん(19)＝鹿児島県出身＝は「地元の友人に、島根って何があるのかとよく聞かれる。この活動を通して、よいところを自慢したい」と話した。

学生たちの記事は計30本あり、今後も増える予定。閲覧数は県観光振興課によるイベント告知などの平均３７００よりも1割程度多く、同課広報戦略グループの梶裕典主任は「学生の視点でポイントを押さえた記事になっており、若い人にアピールできている」としている。（藤本ちあき）